

## Ⅱ 静岡県の実存植生の概要

### Übersicht der realen Vegetation der Präfektur Shizuoka

静岡県は日本列島のほぼ中心部に位置し、複雑な海岸線からわが国の最高峰である富士山山頂までを含み、きわめて多様な自然環境に恵まれている。同時にそこに発達する植物相や植生もまた多種多彩であり、群落の数も多く、いわば本州太平洋側植生の縮図といえる。

静岡県の現存植生については断片的なものを除き、全県レベルでは文化庁（1971）による緊急調査が最初である。同報告では現存植生が38の凡例で20万分の1で図化されている。さらに環境庁によって行なわれた自然環境保全調査（1975, 1976）では同じ20万分の1縮尺で47の植生凡例で示され、特定植物群落調査（静岡県1978）および植生調査（静岡県1979）に植物群落の解説をみることができる。第2回自然環境保全基礎調査のうち、植生調査の結果は5万分の1縮尺で印刷公表された（環境庁1982）。なお現在進行中の第3回自然環境保全基礎調査では5万分の1の現存植生図の残りの地域が調査の対象となり、逐次成果があげられている。

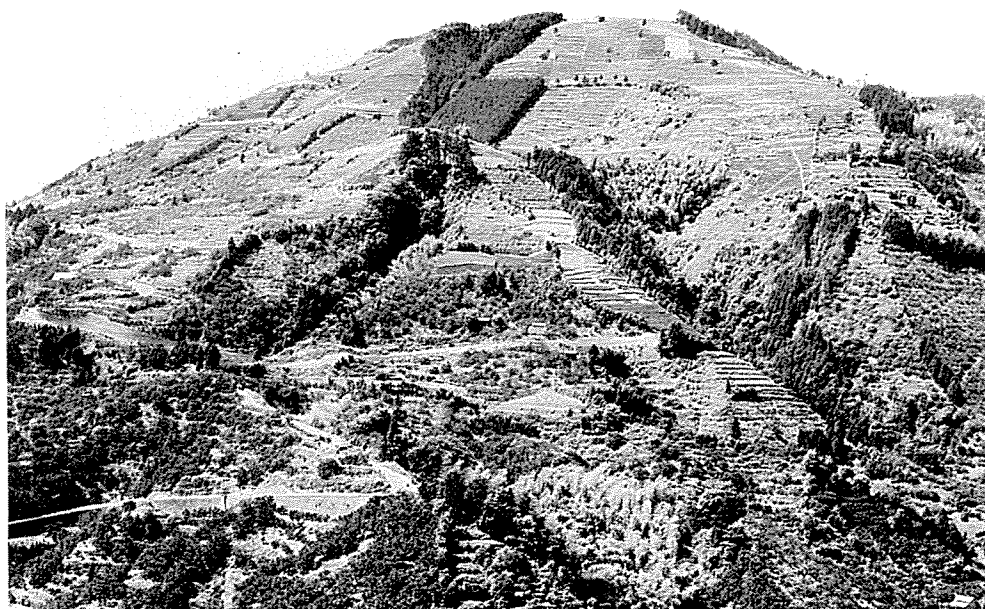
地域的な植生調査報告では南アルプス地区に宮脇・大場（1963）、近田編（1979）があり富士山地区では宮脇・浜田・菅原（1967）がある。自治体を一調査地域とした報告では富士川町（宮脇・佐々木・原田・鈴木1972）、富士市（奥富・松崎1974、宮脇・中村・藤原・村上1984）がある。また浜岡原子力発電所を中心とした御前崎地区でも植生の報告がある（宮脇・村上・鈴木1980）。

静岡県の現存植生はおよそ70の植物群落が記録されているが、植生の分布から主に気候的条件に対応した垂直的分に従うと4つの主要な植生帯に分けられる。

低地の常緑広葉樹林帯；ヤブツバキクラス域は海拔約800m、内陸部では700mを上限とする低地、丘陵部に広がっている。この植生帯ではヤブコウジースダジイ群集がスダジイ群落の代表的な群集である。さらに暖地生のミミズバイースダジイ群集やカナメモチーコジイ群集が県西部に、ホソバカナワラビースダジイ群集が伊豆半島を中心に分布している。またイノデータブノキ群集が静岡市をはじめ、沖積低地の各地に点在している。丘陵部の海拔450mを越えるころからモミ林が目立ち、シキミーモミ群集がとくに尾根状地に生育している。以上の常緑広葉樹林は主に神社林、寺院林として残存している場合が多い（近田1981）。

溪谷林ではイロハモミジークヤキ群集が富士川、大井川流域を中心に点在している。また海岸の風衝断崖地にはトベラーウバメガシ群集、イソギクハチジョウススキ群集をみることができる。

低地部の丘陵地はミカンや茶畑などの農耕地やスギ・ヒノキ植林に利用され、沖積低地は水田（ウリカワーコナギ群集域）となって、自然植生のしめる面積的割合はきわめて狭い（Fig. 3）。また静岡、富士、浜松などの市域の拡大がいちじるしく、無植生域が広がっている。

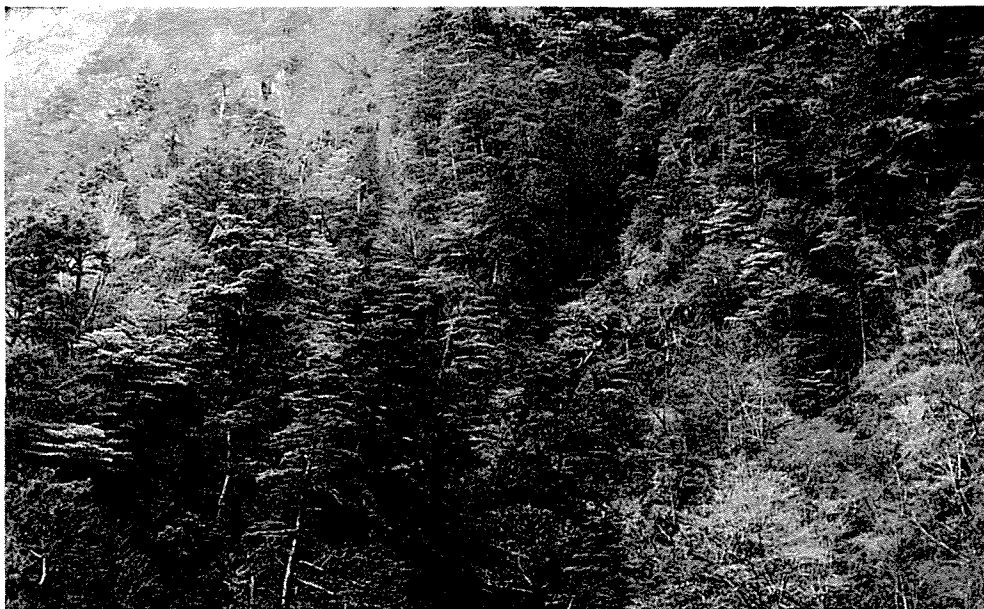


**Fig. 3** 清水市付近の丘陵地帯における植生配分。山麓部にはミカン畑，尾根部では茶畑が等高線栽培されている。谷筋には，スギ・ヒノキ植林，モウソウチク林がみられる（清水市吉原付近 海拔200m）。

Typische Bodennutzug des Hügellandes bei der Stadt Shimizu. Fast alle Flächen werden als Apfelsinen (*Citrus unshu*)- und Tee (*Thea sinensis*)- Gärten genutzt. Entlang der Talhänge kommen *Cryptomeria japonica*- und Bambus-Bestände vor (200m ü. NN).



**Fig. 4** 安倍川中流の河川ぞいの景観。河床に発達するアキグミ群落（ドクウツギ—アキグミ群集），斜面には茶畑が広がっている（静岡市平野付近海拔500m）。  
Eine Tal-Landschaft am Mittellauf des Flusses Abe. Im kiesigen Flußbett entwickelt sich das *Coriario-Elaeagnetum umbellati* (500m ü. NN).



**Fig. 5** 山地峡谷の急斜面はコカンスゲーツガ群集でおおわれる（安倍川，海拔 1,100m）。  
An den Steilhängen der tiefen Täler entwickelt sich das *Carici-Tsugetum* (1,100m ü. NN).



**Fig. 6** 山地帯の景観。ミズナラ二次林にウラジロモミ，ツガなどの針葉樹が混生している（水窪，海拔 800m）。

Eine naturnahe Landschaft in der montanen Stufe. *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*- und einzelne Bäume wie *Abies homolepis*, *Tsuga sieboldii* sind zu erkennen (Misakubo, 800m ü. NN).



**Fig. 7** 赤石山系の山地帯から亜高山帯の景観（寸又川上流，海拔 1,400m）。  
Eine Landschaft der Oberen Montan-Stufe im Akaishi-Gebirge. Die Nadelholz-  
Wälder dominieren (Oberlauf des Flusses Sumata 1,400m ü. NN).

ミズナラ，ブナで代表される夏緑広葉樹林帯；ブナクラス域は県下では下限がヤブツバキクラス域に接し，上限が1,800mと判定される。この植生帯はスギ・ヒノキ植林が卓越するため，自然植生域は限られている。主要な森林群落はヤマボウシーブナ群集で代表され，富士山中腹，天城山，愛鷹山，蕎麦粒山などに発達した林分をみることができる。岩角地や尾根状地などの乾生立地にはコカンスゲツガ群集があり，大井川，天竜川源流部に存在している。また富士山熔岩上の露岩地にはシノブカグマヒノキ群集が生育している。やや高海拔地ではウラジロモミが優勢となり，カニコウモリーウラジロモミ群集でまとめられるウラジロモミ林が富士山中腹（1,400～1,800m）にまとまった広がりを示している。溪谷林にはミヤマクマワラビーシオジ群集，オオモミジケヤキ群集などが天城山，大井川流域などで報告されている。また河畔林のコゴメナギ群集も天竜川，大井川などの河岸砂礫地に点在している。一方風衝地や崩壊地では風衝低木群落のアシタカツツジトウゴクミツバツツジ群集や風衝草原のフジアカシウマーシモツケソウ群集が表富士，愛鷹地区から箱根地区にかけて局地的に存在している。また崩壊地の草原はフジアザミーヤマホタルブクロ群集にまとめられる（Fig. 4～6）。

亜高山針葉樹林帯；コケモモトウヒクラス域は海拔1,800～2,500mの範囲にわたり，県下では富士山と赤石山系にみることができる。シラビソオオシラビソ群集は赤石山系によく発達し，富士山地区ではコメツガの優占林分もみられる。この植生帯は全般的に人為的影響は少ない

が、大井川源流部では民有地が広く、伐採によって消滅している所も少なくない。崩壊性の強い立地ではダケカンバを主とするなだれ低木林（タカネノガリヤスーダケカンバ群集）や高茎草原（センジョウアザミーミヤマシシウド群集）が発達している（Fig. 7）。

高山植物群落帯のコマクサーイワツメクサクラス域では安定立地にコケモモーハイマツ群集とよばれるハイマツ風衝低木群落が広がり、風衝や崩壊のはげしい立地ではコメバツガザクラーミネズオウ群集、タカネビランジータカネヒゴタイ群集、イワオウギータイツリオウギ群集などが生育する。赤石山系、富士山地区とも太平洋岸に面した寡雪山地であるため、雪田植生は発達しにくい。富士山のスコリア性の砂礫地に生育するフジハタザオーオンタデ群集は本地域固有の群集である。